

平成27年度第3回大阪府立豊中高等学校協議会議事録

日 時 平成27年12月21日（月）16:00～18:00

場 所 校長室

出席者（敬称略）

委 員 西澤信善、藤田貴支、越智克司、杉本彩二郎

校 長

事務局 教頭、事務長、上林、朝倉、池田、羽柿、宮野、吉田彩、瀬尾、楠山

1. 校長あいさつ

2. 会長あいさつ

3. 協 議

（1）平成27年度第1回授業アンケートについて

- ・ 授業アンケートの結果については、昨年度と比較して大きな変化はなかった。
- ・ ICT機器を活用した授業が実施されるなど、学習環境を取り巻く状況は変化してきている。こうしたこともあり、本年度は教員にICTの研修を実施した。本校においてもICTを活用した授業が増えてくればより良くなるものとする。
- ・ 学習指導要領が変更されることに伴い、生徒の意欲、判断、表現の重点を置くことになる。このため、双方向型の授業を行うためにアクティブラーニングを活用していく必要がある。
- ・ 生徒のパフォーマンスをどう評価するかということでループリック研修を教員に実施した。どの観点でどう評価するかが重要。

<質 疑>

委員 ループリック評価の導入時期はいつからか。

学校 ある時期から一斉に導入するのではなく、例えば、この提出物からなどできるところから導入していきたい。

委員 ループリック評価はだれが研修担当者となるのか。

学校 SSHなど研究部門はペーパーでは点数化できない。SSH、SGHなどの担当教員が受けた研修を職員会議などの場で教員に伝達している。

委員 大阪府の府立高校で一斉に導入するのか。

学校 文部科学省の主導によるもので、現在は高校より小中学校での導入が進んでいる。

（2）平成27年度学校教育自己診断について

□3年生の状況について

- ・ 「授業についていけている」「質問にいていないに答えてくれる」の項目が昨年度から数値が上がっている。3年生になって本気で勉強を取り組みはじめ、質問にも来るようになったということではないか。
- ・ 「文化祭・体育祭など学校行事は楽しく工夫されている」の項目は、昨年の3年生と比較しても数値が下がっている。アンケートに「もっとまかせてほしかった。」との記述もあり、自分たちの思う通りにできなかったのかもしれない。この点、来年の学年には活かしほしい。

□2年生の状況について

- ・ この学年には、自学自習ということを使い続けてきたこともあり学力は伸びてきている。
- ・ 進路希望については、実力と比べて控えめであるが、担任としては背中を押していきたい。
- ・ 2年生として学校の中心であるという意識を持っている生徒多い。

□1年生の状況について

- ・ 中学から高校へと環境が変わり、学校にうまくなじめるかどうかを一番心配していたが、「学校に行くのが楽しい」の項目の数値が高いなど、その点は安心している。

- ・ 群読合戦も4年目となるが、今年の1年生は頑張っていると感じている。
- ・ 一方、学習面では予習をしている生徒の数値が極端に低い結果となっているので、この点は指導を続けていく。

<質 疑>

委員 「授業についていけない」の項目の数値について、1年生が他学年に対して低いことについてどう捉えているのか。

学校 ついていけないことない。家庭での勉強が定着していないため、定期考査で思うように点が取れなかったと聞いている。授業を自分のものにすれば自信もついてくると思う。

学校 1年生は、まだ勉強の仕方もわからないため、毎年1年生は数値が低い。

委員 「進路希望に応じた選択科目が用意されている」の項目について、学年が進むにつれて数値が下がるのはなぜか。

学校 学年が進むにつれ、受験に関係のない科目があることを負担に思っていることもあるのではないかと。

委員 図書館の利用が極端に低いのはなぜか。

学校 今は Web で調べることが中心となっている。書庫には多くの蔵書があるが配架していないのが原因かもしれない。また、課題研究など調べ学習に必要となる図書は、それぞれ教科の部屋に置いてあり、図書館とは棲み分けができてしまっている。

(3) 進路状況について

- ・ 卒業生の進路状況について、66期生は初めての文理学科に入学してきた生徒で模試の成績を見ても在学中から上位の生徒が多かった。67期生は普通科の健闘が目立った。
- ・ 現在の1・2年生の進路希望の傾向は、国公立大学を希望する生徒が285名から305名となるなど国公立大学への進学希望が増加している。
- ・ 私立大学については、関関同立が中心であるが本校は同志社が人気となっている。
- ・ 志望学部については、これまで全国的に理高文低であったのが、去年あたりから文系が盛り返ってきており、それが本校の志望学部の傾向にも表れている。

(4) TOEFL コースについて

- ・ 1年生の「4技能統合型に慣れる、語彙力の増強」の目標は概ね達成している。到達目標についてはステージ3からステージ2に変更した。ステージ2は30%がIBT40点以上であるが、この目標の達成は少し厳しい状況。インターネットベースのテストに生徒が慣れていないことも原因の一つと考えている。
- ・ リスニングは家庭学習中心としてきたが、やっていない生徒もいることから次年度はコール教室で実施するなど工夫したい。スピーキングは即興で話すことが難しいので引き続き練習させる。ライティングは150語を使って書く練習をさせているところ。

(5) 1年間のまとめ、提言

- ・ SSHやSGH事業に取り組むなどいろいろなことにチャレンジしていただいている。授業の内容も充実している。校長とも話をしたが、学力をつけていただきたいというのがOBの願い。しかし、学力が優秀であってもモラルが低いのでは豊高の名折れになる。モラルも高い生徒を育ててほしい。これまで様々な取り組みについては継続して行っていただきたい。この間の先生の取り組みについて心強く思っている。

(6) その他

- ・ 委員について、来年度もう1年継続してもらうことについて了承を得た。